

【ものづくり 人づくり 地域づくり】「平和の集い」委員会

調べれば調べるほどに 知れば知るほどに

私たちの足下に、暮らしの中にある戦争の跡。

歩いて訪ねて、出てきたもの、見えてきたこと、いろいろなこと

陸軍 柏飛行場

「帝都防衛」米 B29 爆撃機の迎撃用に柏飛行場で開発がすすめられたロケット戦闘機「秋水」。柏の森の中には飛行機を隠す壕が。劇薬燃料を補完する地下燃料群が今も民家の中の畑の元に眠る。



地下から畑に突き出す劇薬燃料庫の換気筒



地下燃料庫の出入り口



11/8、幻の秋水を柏に訪ねた平和の集い委員と協力者のみなさん



壁に機銃掃射の跡が残る飛行場倉庫



航空教育隊正面

【今週のニュース】

常総支援に頂いた魚住さんの有機野菜で キムチができました！

「頑張れ常総生協！」と、組合員である有機農家・やさとの魚住さんよりたくさんのお白菜・大根・人参の寄付を頂きました。ありがとうございます。魚住さんから頂いた有機野菜を、震災津波で工場が流されてしまった宮城野の「趙さんの味」の再建工場に持ち込み、岩手のコタニさんからダシの昆布、福島の大木代吉商店から料理酒蔵の素、そして山形おきたま興農舎からりんごが送られ、茨城・東北大結集！キムチができました！協同・支援の大切なキムチです。ぜひご賞味、ご利用を！

【みそニュース】

- 手作り味噌講習会のご案内
- 大豆備蓄基金の呼びかけ

やってきました！みそづくり

契約栽培の大豆、こうじの注文受け付けが開始されました。恒例の味噌づくりです。ぜひ挑戦しましょう。今年は1,000人が目標です。備蓄のための大豆基金にもご協力を。

【「平和の集い」委員会】11月8日

幻の戦闘機「秋水」を訪ねて

旧陸軍柏飛行場跡と「秋水」掩体壕・燃料庫群の見学、そして吉田邸

11月8日(日) 晴れ、強風。太平洋戦争末期にアメリカのB29を打ち落とすために大急ぎで開発されたロケット戦闘機「秋水」。その基地が柏にありました。旧陸軍の柏飛行場です。私たち常総生協の「平和の集い」委員会は、身近にある戦争の跡・記憶を掘り起こして、「生きる」ということを見つめなおそう、ということで組合員の皆様に身近な情報を寄せていただけるよう呼びかけました。すぐに、様々な情報や昔の写真や資料などたくさんいただきました。

委員会のメンバーで話し合ったところ、近くにある戦争の跡を訪ねてみよう、という案が出され『エンタイゴウ』という聞きなれない言葉と共に『秋水』という爆撃飛行機のことを調べてみようということになりました。それは昔、柏にあった飛行場が舞台らしい、今でもその跡が残っているということをネットで知り、早速問い合わせたところ、すぐにお返事をいただきました。そして、「手賀の湖(うみ)と台地の歴史を考える会」事務局の浦久さんの案内で下見を行い(10/15)、参加者募集、見学会実施にこぎつけました。

途中「柏飛行場」についてのレクチャーを受け、こんぶくろ池公園の掩体壕と柏飛行場の跡地、秋水の燃料庫群、など戦跡をめぐり、最後に江戸時代からの豪農吉田家の邸宅でほっと一息ついてから終了ということになりました。

手賀の湖と台地の歴史を考える会の皆様、講師を引き受けてくださった國學院大学の栗田先生、こんぶくろ池自然の森の古橋さん、当時の様子をお話してくださった平泉さん、八木郵便局の元局長さん、地元の小学校の先生、大変お世話になりました。ありがとうございました。



「平和の集い」委員会では、戦争とそれによって様々な体験をされた方のお話をお聞きして、「そんな戦争」を作らせないためにどうしたらいいか、空襲、戦災、

- ＜見学コース＞
- ① こんぶくろ池自然博物館(池、掩体壕)
 - ② 柏の葉公園センター(レクチャー)
 - ③ 柏飛行場の正門付近と分廠跡
 - ④ 柏の葉公園(昼食)
 - ⑤ 「秋水」燃料庫群
 - ⑥ 旧吉田家住宅歴史公園

引き揚げ、など命をみつめる活動を計画しています。組合員の方々より先刻お預かりした資料は、展示等に活用させていただいたらと考えております。

(平和の集い委員会 委員長 関谷和子)

【主催】 常総生活協同組合
【協力】 手賀の湖(うみ)と台地の歴史を考える会、NPO法人こんぶくろ池自然の森
【解説】 栗田尚弥氏(國學院大學講師、手賀の湖(うみ)と台地の歴史を考える会会員)



参加者19名とご協力頂いたみなさんです。青い空は、青いままでの晴天下でした。

こんぶくろ池の近くの林の中に、隠れるようにしている“掩体壕”発見

初めに見学を訪れた掩体壕は、「こんぶくろ池自然博物館」のこんぶくろ池の近くにありました。自然博物館の散策路は薄暗い林の中に続いていて、こんぶくろ池を見たり林の木洩れ日の美しさにみとれて歩いていると、散策路が突然行き止まりになり、ほんの少し高いような場所が現れました。ジャングルのなかで突然迷って、行き先が無くなったような場所でした。案内をして下さった「手賀の湖と台地の歴史を考える会」の方々や栗田先生の説明では、目の前にあるほんの少し盛り上がった所が、私たちが訪れる予定だった“掩体(えんたい)壕(ごう)”でした。以前に写真などで見ていたものとは随分違っていました。



掩体壕とは、戦闘機などを敵の目から隠す格納庫で、小高く目立たないようにこんもりした滑らかな小山の屋根のついた格納庫だと思っていましたが、ここではこんもりした飛行機の形をしたであろう土塁で囲まれているだけでした。今では、そのことも外見だけではそれさえもよくわからない状態になっていました。

説明をされて、「はーこれがここの掩体壕か」「なるほど、へー、これでは空からB29戦闘爆撃機から丸見えで、爆撃されてしまうけれど・・・」と思ってみました。当時は、これで飛行機を守れるとまじめに考えていたのでしょうか。

飛行場は、この場所から1km離れた所にあり、その間に今でも誘導路だったところが道路になって残っていました。私たちは、その誘導路の一部を歩いて、次の見学地の県立柏の葉公園=旧陸軍柏飛行場まで歩いて行きました。歩きながら、この道で当時の飛行機が掩体壕から出入りしていたことが、信じられないというか想像できない気持ちになりました。すっかり様変わりしたであろうその場所で、説明してもらわなければ決して想像できないことでした。

このような掩体壕は、当時は今確認されているだけで飛行場の西滑走路と北誘導路、東誘導路に沿って26か所くらいあったようです。現在は6か所現存しているそうです。(守谷市 丸町)



なんと、「県立柏の葉公園」周辺は、74年前には陸軍柏飛行場だった！

1938年（昭和13年）首都防衛のため、1500m滑走路1本の陸軍飛行場が柏に作られました。ここは、太平洋戦争末期に、陸海軍が共同開発したB29用のロケット戦闘機「秋水」の基地にもなりました。

1945年（昭和20年）頃になると、滑走路も無視して戦闘機が四方八方へ迎撃に飛び立ち、そのまま帰還しないことも少なくなかったそうです。



雑品庫。米軍の機銃掃射の跡がいくつも残っていました。



ガス庫。言われなければわからない倉庫でした。



飛行場の営門がそのまま残っている。門扉の金具も付いたままでした。



柏飛行場は、戦後、米軍に接收され、朝鮮戦争時はアンテナの立ち並ぶ通信基地として使用されました。今は、飛行場跡地が柏の葉公園になり、司令部跡周辺が陸上自衛隊柏送信所になっています。（牛久市 青柳）

畑から突き出た煙突?! 実は劇薬燃料の換気筒だった・・・'秋水'燃料庫群

柏市花野井にある“秋水”燃料庫群を見学しました。“秋水”というのは、終戦直前に、首都防衛のために計画されていたロケット戦闘機です。尾翼のない特殊な形をした戦闘機で、混ぜると爆発的な推進力を発する2つの液体を燃料としたロケットエンジンを搭載してアメリカのB29に対抗しようと計画されました。

試験飛行や訓練が行われましたが実用前に終戦を迎えたことから幻の戦闘機ともいわれています。開発計画が柏飛行場で行われたため、飛行場の近くに地下燃料庫が作られ、その一部が残っています。



ロケット戦闘機“秋水”（三菱重工名古屋航空宇宙システム製作所史料館）

燃料庫は、上から見ると三日月形のコンクリート製のトンネルで谷を臨む台地の崖に作られています。トンネルの断面はかまぼこ型です。トンネルの途中に換気口があり、畑に換気筒が突き出ているところもあり



畑に突き出す煙突?・・・この地下に劇薬の燃料庫が。その換気筒が今も

ます。

現在は左右の出入口はふさがれていて中を見ることはできませんでした。秋水の燃料はどれも劇薬で金属を溶かしてしまうので、収納容器として陶器が用いられました。かつてはトンネルの中に陶製の甕が並んでいたのでしょうか。



かまぼこ型の地下燃料庫 出入口

燃料庫は花野井に4箇所程度残っていますが、どれも住宅地の中にあり、ほとんどが私有地です。貴重な戦争遺跡は永く後世に伝えたいですが、今後、どのようにして保存していくのが問題だと思いました。

（つくば市 高橋）

『柏飛行場と帝都防衛』 栗田先生のお話し 柏の葉公園センター会議室

栗田先生のお話、とても大切な内容でした。

明治以来の時代背景がわからないと、なぜここに「軍郷」と呼ばれる重要な軍事施設が作られたのか、またどのような段階を経て、仕組みが成り立ったのか、世界の情勢、日本国内での状況なども時代の変遷と共に、お聞きすることができました。

第1次大戦後航空機の発達により「国土防空」の主張により、「帝都防衛」のため飛行場・航空施設建設を急ぐ陸軍に目をつけられたのが平坦で畑や牧場が多かった千葉県東葛地域。ここで、推進派だったのが江戸時代から牧土で豪農だった吉田家。柏・松戸の村おこし誘致合戦など時流を漕ぎ渡る当時の住民の息吹きも聞こえてくるようでした。



昭和19年になり、戦局の悪化と「大本営」を守るための統帥機構の変更があり、「無理を強行する以外に手段なし」という状況下で特攻隊が編成され、ドイツのメッサーシュミットをモデルとしたロケット戦闘機「秋水」の開発が大急ぎで敢行され柏もその基地になり、「秋水」の機体を隠す「掩体壕」や危険なロケット燃料を保管するためのぶ厚いコンクリートの燃料庫が多数建設されました。また高射砲部隊が置かれ「帝都」を守るため期待されたようです。

短い講義でしたが、「軍事史」という知らない分野、聞きなれない単語がいくつもあり、なかなか興味深かったです。現在に直結する歴史の一部であり、身近な場所に残る遺構とその成り立ち、今の街の様子を知ることができました。（土浦市 関谷）

江戸時代末期～明治時代へタイムスリップ～！

バスは、最終見学地
旧吉田家歴史公園へ入
場料無料です。

長屋門を入り、茅葺屋
根の重厚な造りの主屋、
江戸時代末期から明治時

代の初期の生活が目に見え、土間から建
物の中へ入ったら、また驚きの数々が……。趣のある
囲炉裏がありました。広々とした書院からは、書院
表庭園が見渡せます。安らぎのひと時です。

お金の勘定をしたり、金庫が置かれていたという帳
簿部屋、決まった人以外は入れないように工夫された



仕掛けのあるお部屋でした。この主屋の隣地は明治
時代～大正初期には醤油工場を営んでいたそうです。
その他、女中さんのお部屋も印象的でした。

園内の案内係りの方が、丁寧に説明をして下さり、
由緒ある歴史的建造物をゆっくりと興味深く見学でき
ました。(牛久市 中川)



(参加者のアンケートより)

○柏に住んでいるのに知らなかった

今回、柏の戦跡めぐりに参加して首都防衛の重要な
拠点であり、それがほぼ柏市全体に広がっていたのを知り、
ある意味ショックでした。長年、柏に住んでいて何も知らな
かったことに……。

こんぶくろ池で見た「掩体壕」の痕跡。住宅街にぽつ
かりある「秋水」の燃料庫。それは畑の中にもありました。
それらを壊してしまうのは簡単ですが、保存していくのは
苦労がありそうですね。でも、伝えていかなくては……。私
も、友人や子どもに話しました。柏の組合員の参加がな
かったのはとても残念でした。(柏市 牧野)

○昔も今も……

近くに住んでいながら何も知らなかったと、つくづく思
いました。しかし、昔も今も、あまり変わらない現実。
村おこし、街おこしにとんでもない施設を誘致している。
なんだか原発と似ている部分あるな……。美しい紅葉、
落ち葉を、公園で遊んでいる子どもがかき集めて頭から
かぶったり……。いつもなら可愛い姿が、心配になる。
ここはホットスポット。やめなさい、なんて言いたい
老婆心。(龍ヶ崎市 飯野)

○興味深く

こんぶくろ公園、貴重な自然林でしたね。だけど、今
も林の中は放射線値が高いんだ。興味深いたくさんの
資料。ご苦労ありがとうございます。千葉県は戦跡が多
いようですね。吉田邸、見学コースにおまけして下さい
て、目からウロコ。(つくば市 坂口)

○機会があればまた

栗田先生のお話は、とても興味深い内容でした。機
会があれば又、お聞きしたいです。(龍ヶ崎市 速水)

○軍事施設、驚きとともに

柏市周辺が軍郷、軍都と呼ばれ、飛行場はじめ多くの
軍事施設やその周辺施設があった事、これらは今で
いう「地域活性・村おこし」的な意味で、積極的に誘
致されたことに驚き、秋水地下燃料庫の一部は現存し
ながら、その上では今も農業が続いていること、こんぶ
くろ自然博物館として癒やしの場になっている事に少
しホッとしました。豪農吉田家、今度は桜の時期に委
てみたいと思います。(取手市 島崎)

ごいっしょに 歌いましょう！

今回はバスの中で、“平和の歌”を歌ったらどうでしょう！と平和
の歌の歌集を作りました。
今回はその中の1曲“青い空は”を紹介します。(2番は省略)

1. 青い空は青いままで子どもに伝えたい
燃える八月の朝 影まで燃え尽きた
父の 母の 兄弟たちの
命の重みを 肩に背負って 胸に抱いて
3. 青い空は青いままで子どもに伝えたい
すべての国から 戦の火を消して
平和と愛と 友情の
命の輝きを この固い握手と 歌声に込めて

この歌を歌うと、広島や長崎に投下された原爆犠牲者の方々の声
が聞こえてくるようです。

歌は尊い命について、平和に生きることに私たちに語り
かけてくれます。これからもどうぞ一緒に。平和の集いの企画
にも参加してください。歌の好きな方募集中です。
皆さんと一緒に歌いましょう。(牛久市 中川)

平和の集い委員会の紹介です

常総生協では、6年前から「食といのちのシリーズ(連続講座)」の一環
として、平和の尊さやいのちの大切さ、戦争の悲惨さを後世に伝えるべく、
理事会を中心に戦争体験の語りをはじめ、収容所の子どもの絵画展な
どを開催してきました。

2012年度は、総代会時の組合員アンケートから出発。組合員が主体となっ
ての開始となりました。

委員会初日、「戦争ってね～！世界のどこかで今も戦争がある。今まで
の体験談からは知らされる事実に変更して話した。意識的な努力がなければ
平和は守れない。しかし、個人の力では……。」

話し合いは煮詰まり、熱く心は動いて、生きる重みを再度確認しようと、「身
近にある戦争戦跡の見学会」を企画することになりました。

バスでの見学会は初行事でしたので慣れないことが多く、ご迷惑をおかけ
しました。

来る5月28日(火)～6月2日には、つくば市民ギャラリーにて戦争体験
者の方がお持ちの資料等を展示し、体験談を聞く会も開催します。別途ご
案内します。平和の集い委員会に参加ご希望の方は、生協までご連絡下
さい。